

一般国道4号 大衡地区 第2回意見聴取

－ クロス集計結果 －

平成27年 8月 5日 東北地方整備局

参考資料 目次

参考1. クロス集計結果【住民アンケート】

属性別分析	1	居住地別	...	3
	2	年齢別	...	4
	3	職業別	...	5
利用頻度・移動手段・利用目的別分析	1	居住地別	...	6
	2	年齢別	...	7
	3	職業別	...	8
その他集計	1	利用頻度・利用目的	...	9
	2	移動手段	...	10
第1回意見聴取結果の妥当性分析	1	居住地別・年齢別・利用頻度別・移動手段別	...	11
	2	利用目的別・重視する項目別	...	12
重視する項目分析	1	居住地別	...	13
	2	年齢別・利用頻度別・移動手段別・利用目的別	...	14

参考2. クロス集計結果【企業・団体アンケート】

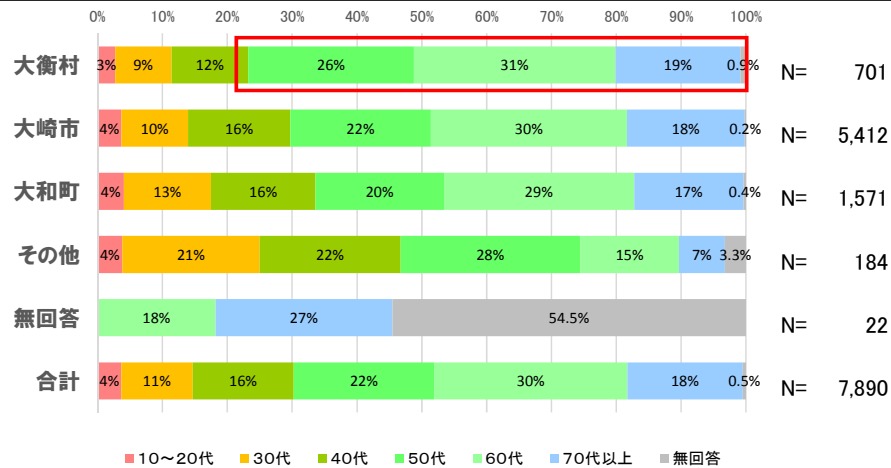
重視する項目分析	1	業種別	...	16
----------	---	-----	-----	----

参考1. クロス集計結果【住民アンケート】

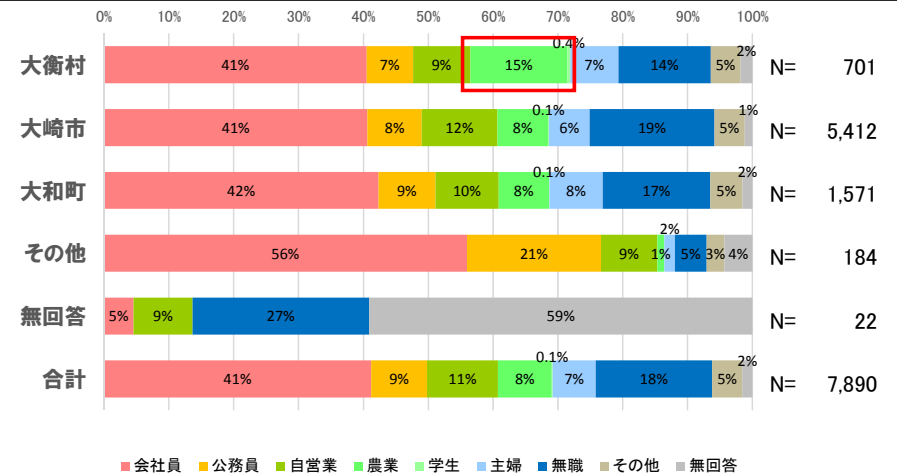
住民アンケート 属性別分析1 居住地別

- ◆居住地別年齢で、大衡村は他の地区と比べ、50代以上の回答割合が多い。
- ◆居住地別職業は、大衡村における学生からの回答数が多い傾向。
- ◆居住地別性別では属性の偏りはない。

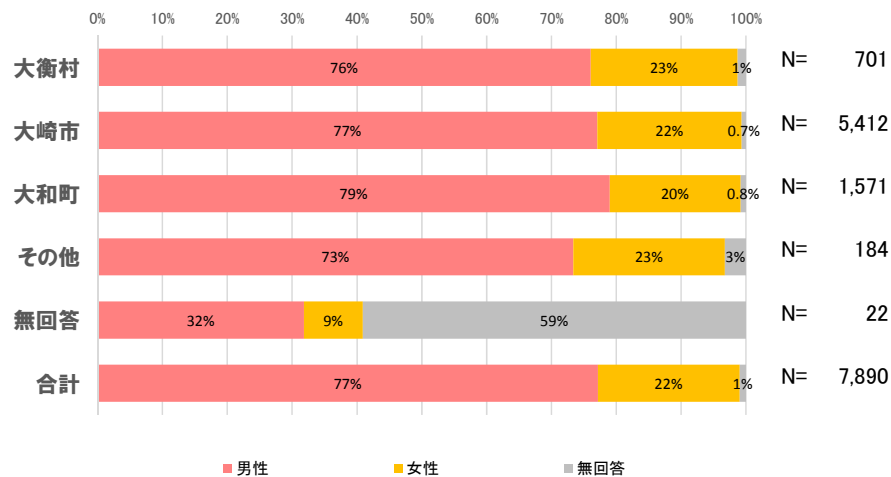
【居住地×年齢】



【居住地×職業】



【居住地×性別】

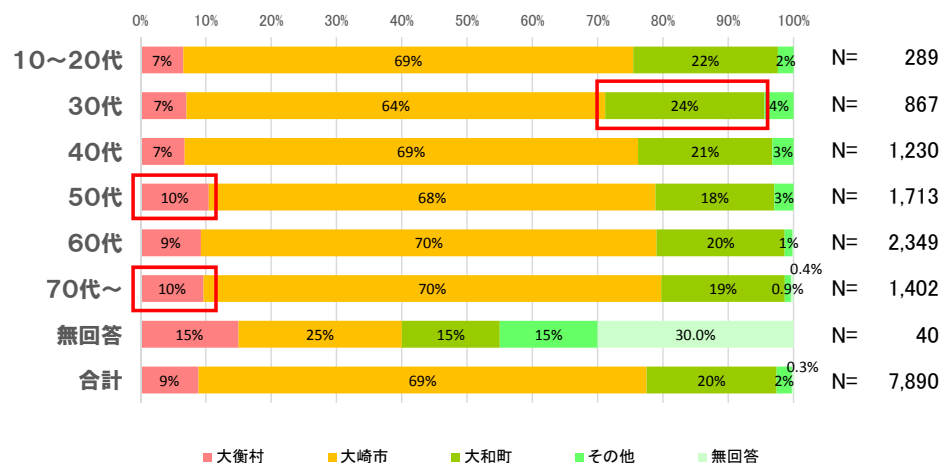


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

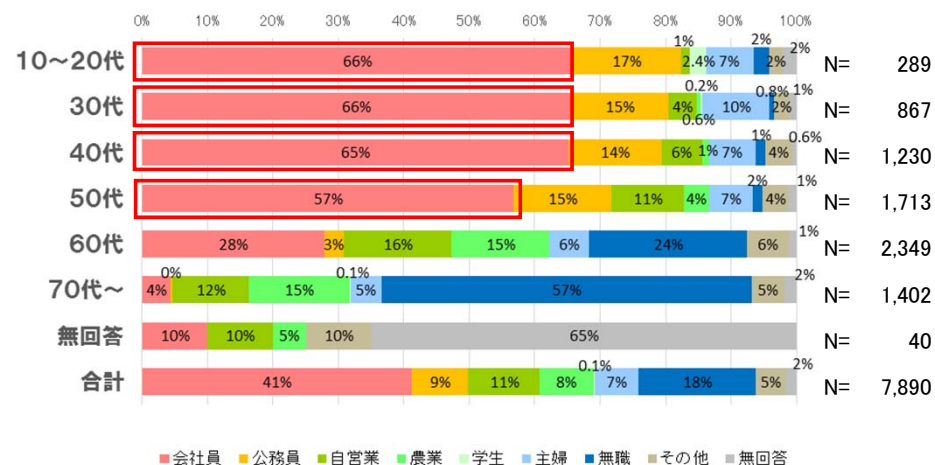
住民アンケート 属性別分析2 年齢別

- ◆年齢別居住地は、50代や70代以上で大衡村の割合がやや多く、大和町では30代の割合が多い傾向。
- ◆年齢別職業は、20代～50代の5割以上が会社員。
- ◆年齢別性別では、年代が上がるほど女性の割合が少ない傾向。

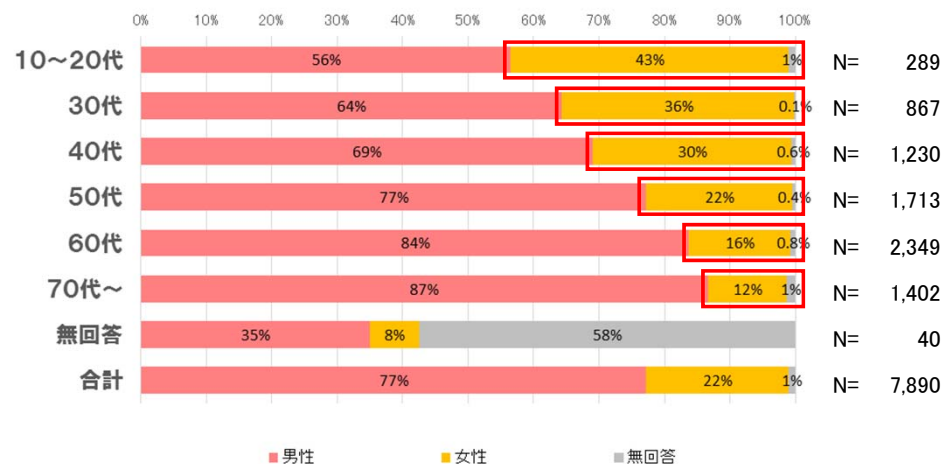
【年齢×居住地】



【年齢×職業】



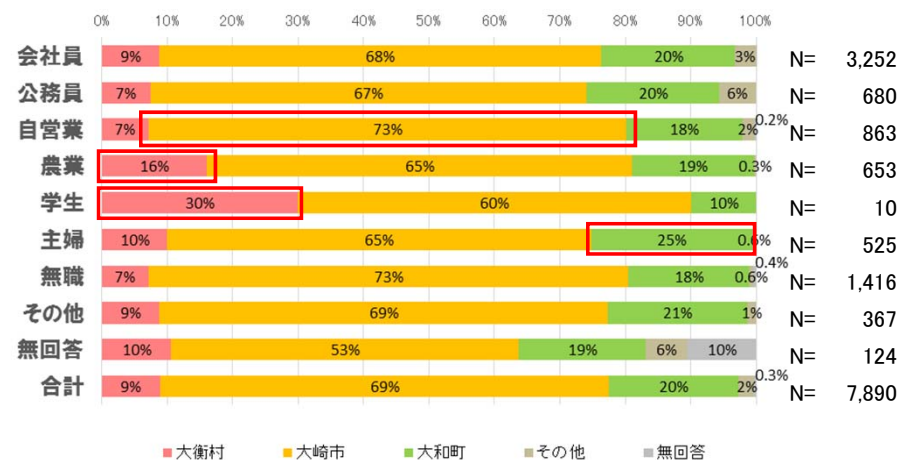
【年齢×性別】



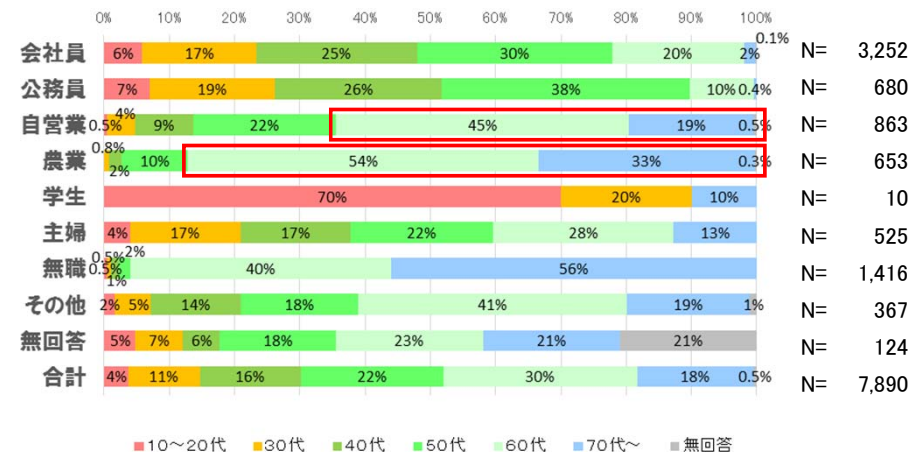
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

- ◆職業別居住地は、農業や学生で大衡村の割合が比較的多い。大崎市では自営業、大和町では主婦がやや多い。
- ◆職業別年齢は、自営業や農業で60代以上の割合が多い。
- ◆職業別性別は、会社員、公務員、自営業、農業の約8割以上が男性。

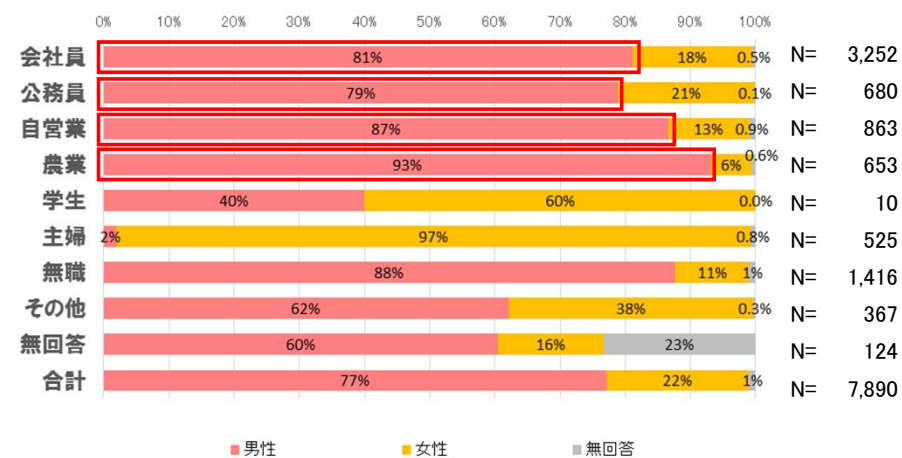
【職業×居住地】



【職業×年齢】



【職業×性別】

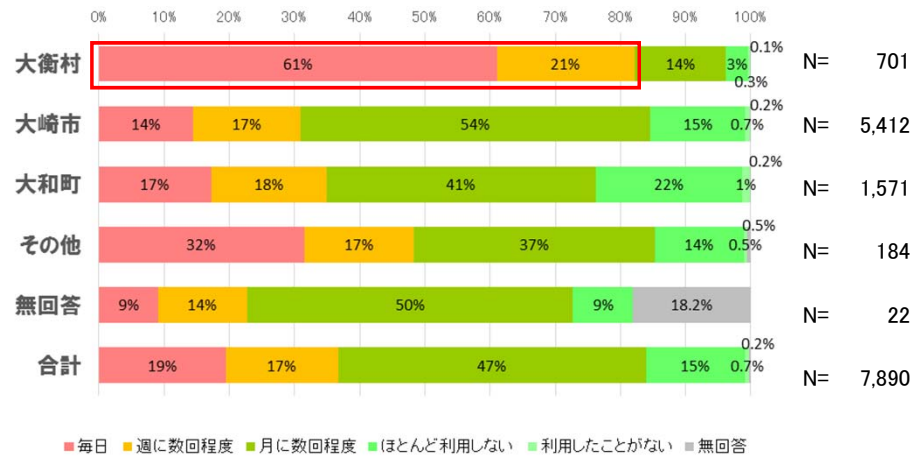


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

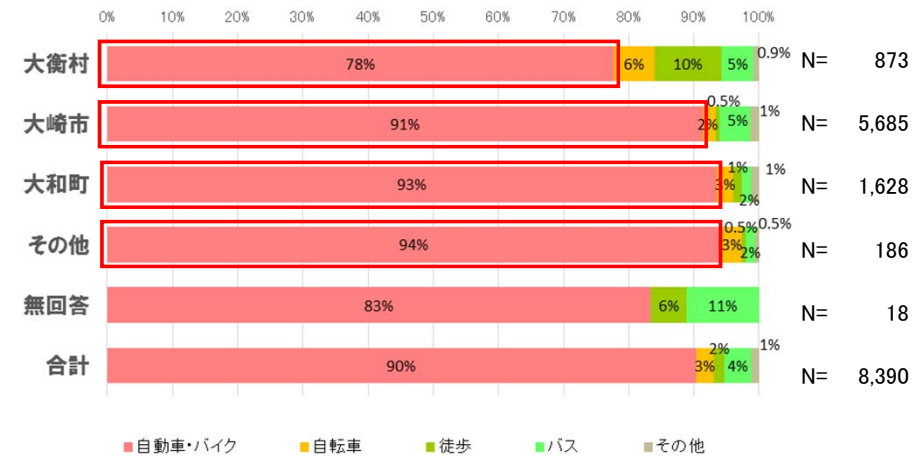
住民アンケート 利用頻度・移動手段・利用目的別分析1 居住地別

- ◆居住地別利用頻度は、大衡村の約8割以上が週に数回程度以上利用する傾向。
- ◆居住地別移動手段は、居住地によらず自動車・バイクが8割以上と多い。
- ◆居住地別利用目的は、大衡村で通勤、通学、通院の割合が多く、大崎市と大和町は観光・レジャーが多い傾向。

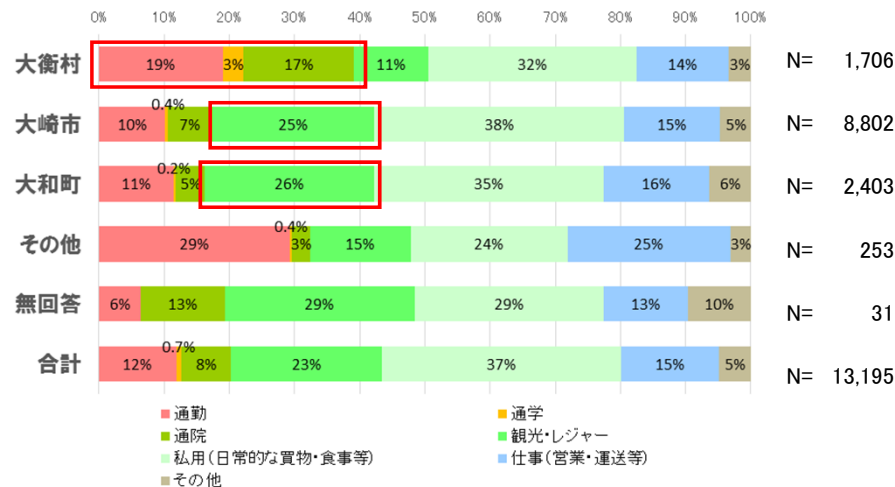
【居住地×利用頻度】



【居住地×移動手段】 ※複数回答



【居住地×利用目的】 ※複数回答

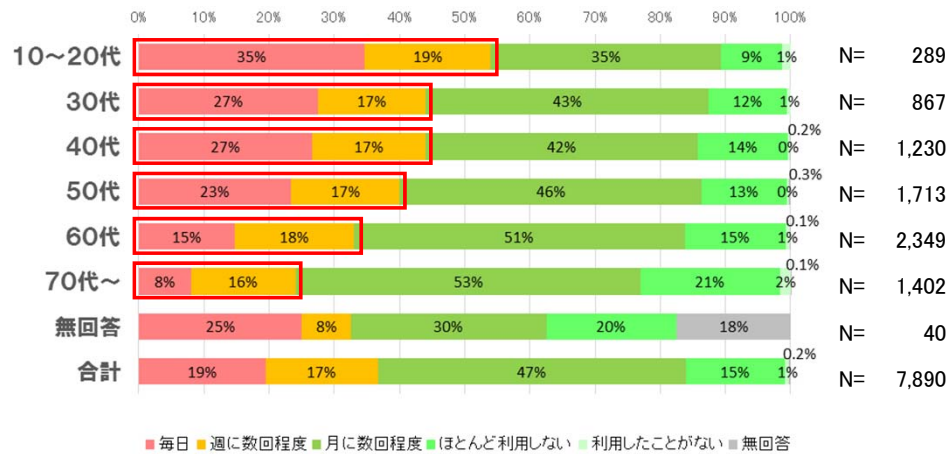


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

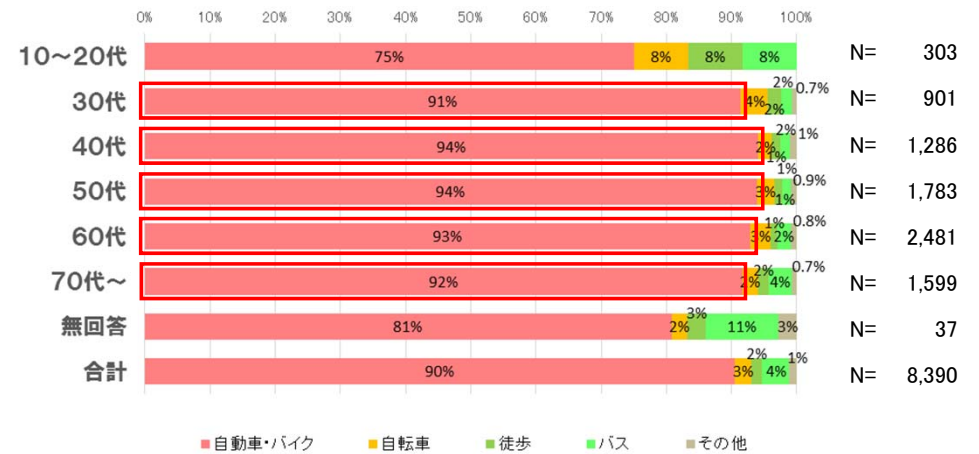
住民アンケート 利用頻度・移動手段・利用目的別分析2 年齢別

- ◆年齢別利用頻度は、年代が上がるほど週に数回程度以上利用する割合が少なくなる傾向。
- ◆年齢別移動手段は、30代～70代以上で自動車・バイクが9割以上と多い。
- ◆年齢別利用目的は、年代によらず私用が約4割を占めるものの、仕事で40代～60代が約2割とやや多い傾向。

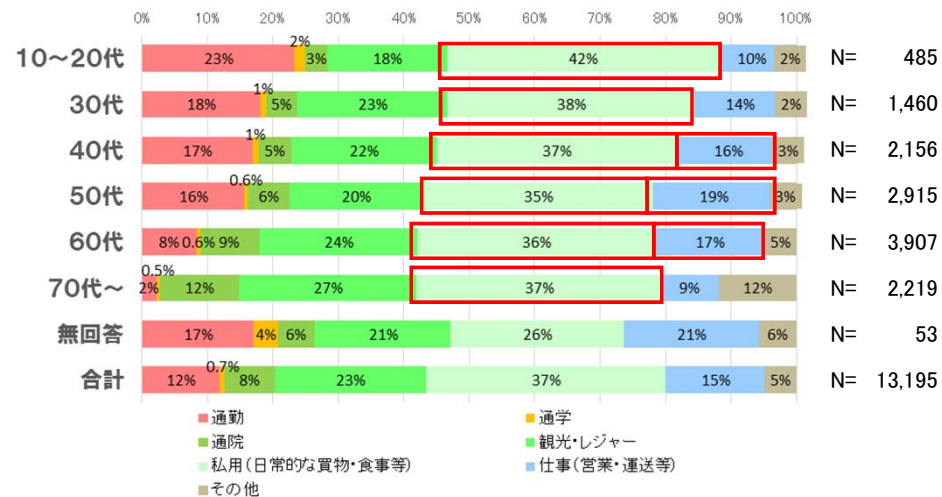
【年齢×利用頻度】



【年齢×移動手段】 ※複数回答



【年齢×利用目的】 ※複数回答

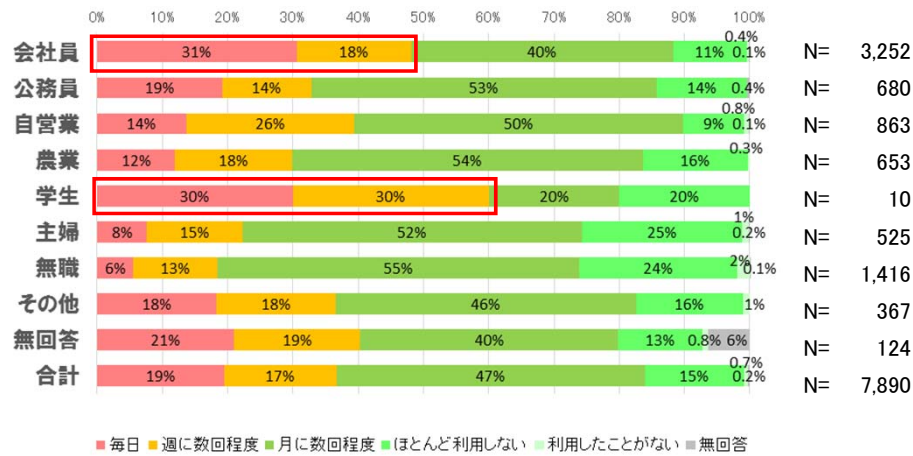


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

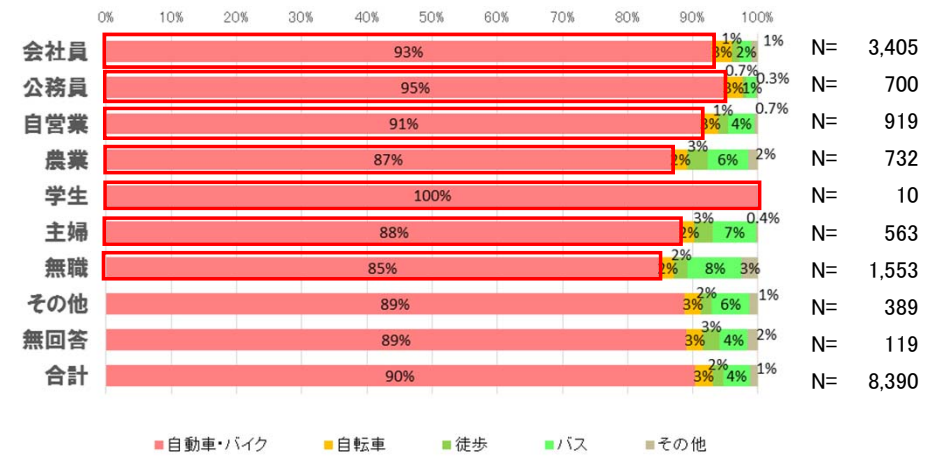
住民アンケート 利用頻度・移動手段・利用目的別分析3 職業別

- ◆職業別利用頻度は、特に会社員や学生が週に数回程度以上利用する傾向。
- ◆職業別移動手段は、職業によらず自動車・バイクが9割程度と多い。
- ◆職業別利用目的は、自営業での仕事による利用がやや多い傾向。

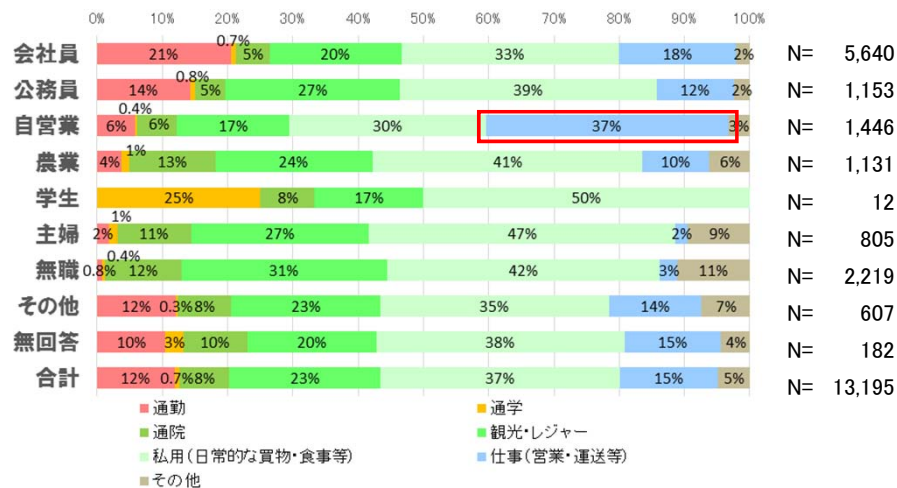
【職業 × 利用頻度】



【職業 × 移動手段】 ※複数回答



【職業 × 利用目的】 ※複数回答

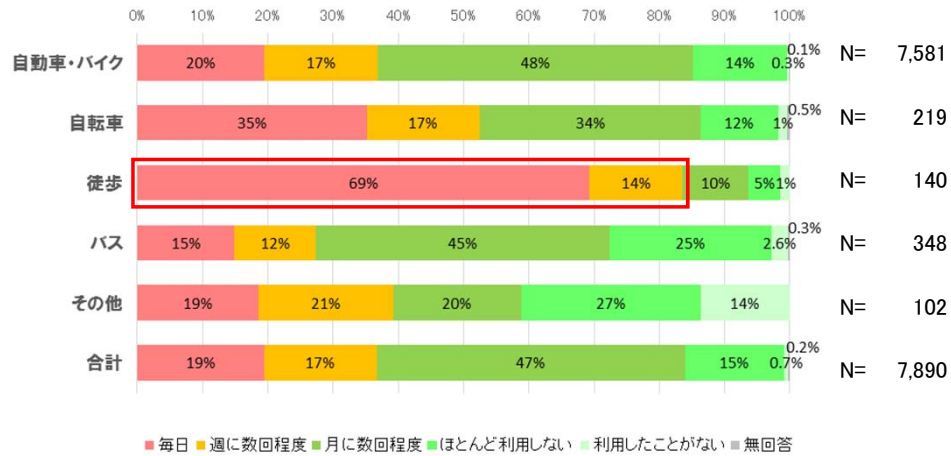


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

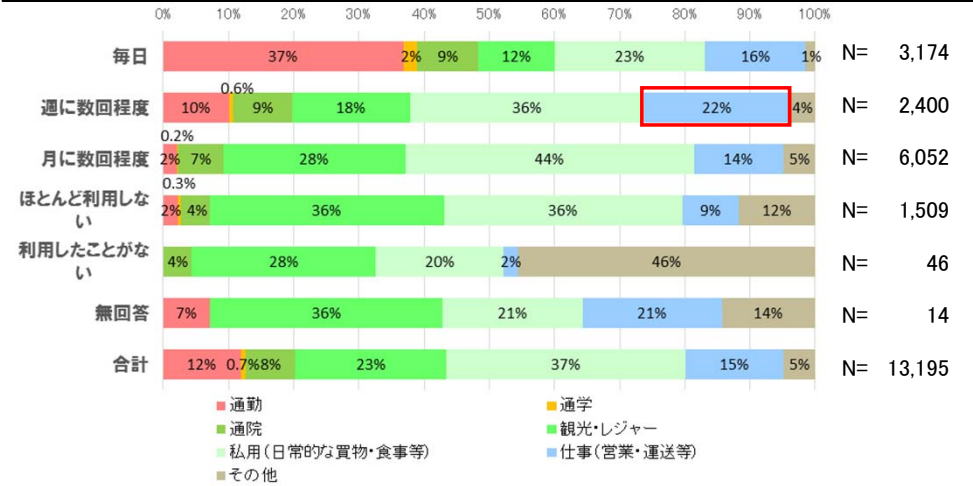
住民アンケート その他集計1 利用頻度・利用目的

- ◆ 移動手段別利用頻度は、徒歩の約8割以上が週に数回程度以上利用する傾向。
- ◆ 利用頻度別利用目的は、週に数回程度利用で仕事はやや高い傾向。
- ◆ 利用目的別利用頻度は、通院での5割が週に数回程度以上利用している傾向。
- ◆ 移動手段別利用目的は、徒歩で通院する割合がやや高い傾向。

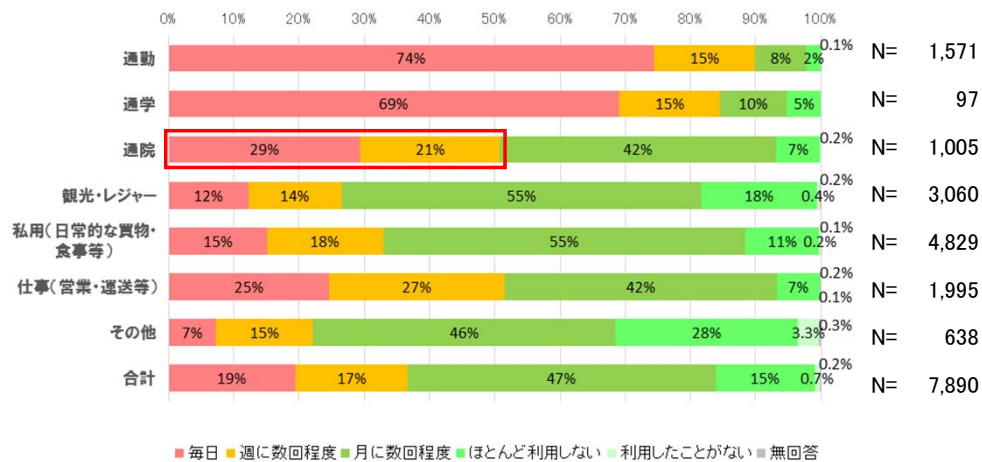
【移動手段×利用頻度】 ※複数回答



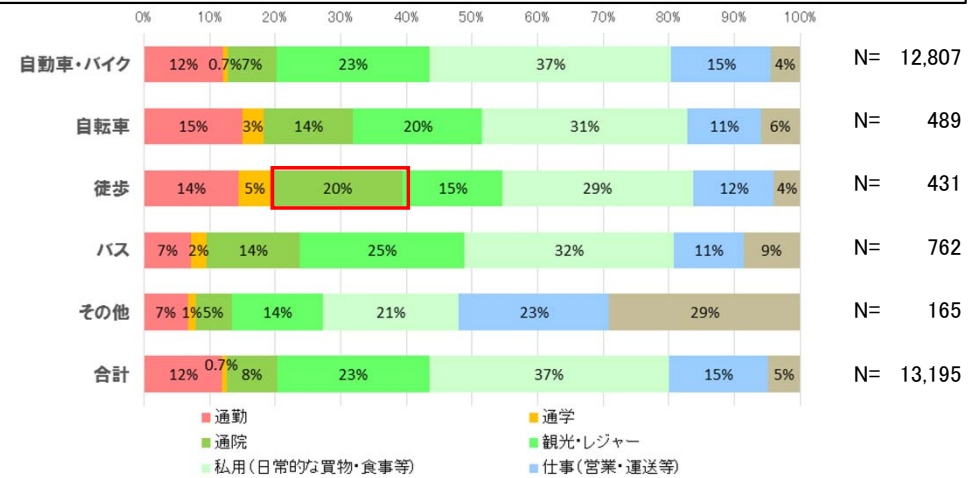
【利用頻度×利用目的】 ※複数回答



【利用目的×利用頻度】 ※複数回答



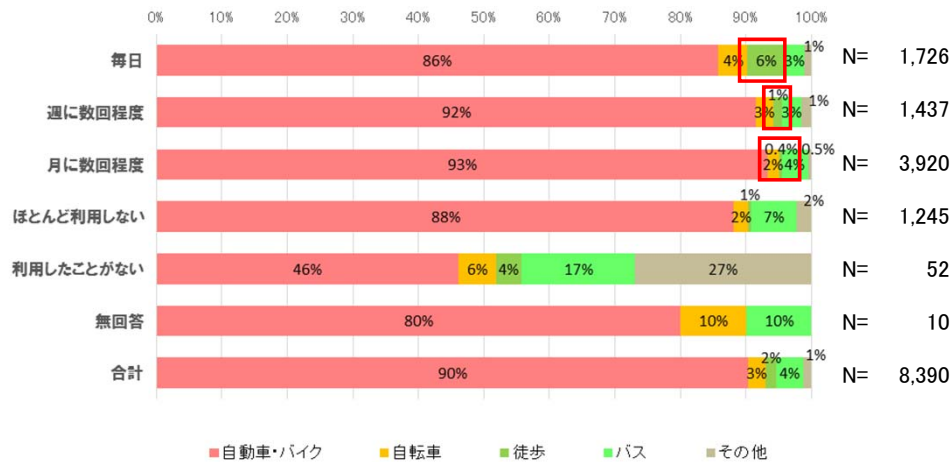
【移動手段×利用目的】 ※複数回答



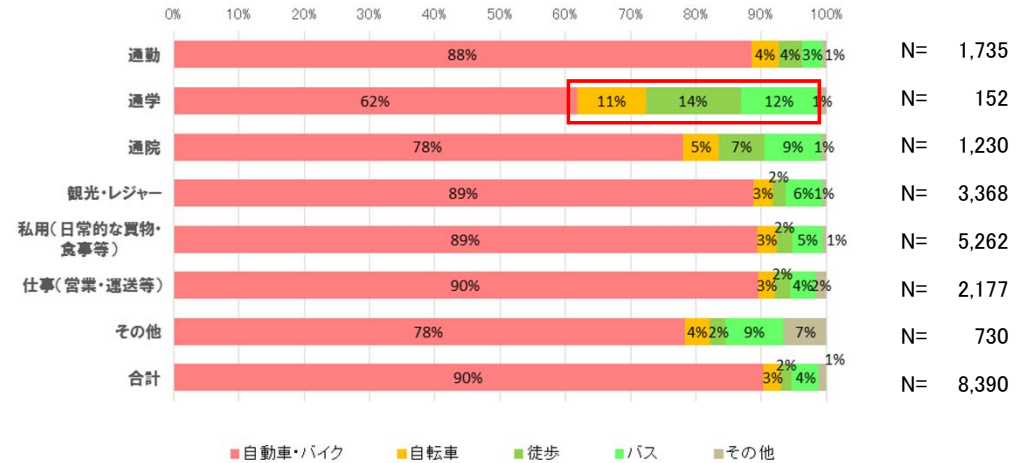
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
 ※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

- ◆利用頻度別移動手段は、利用頻度が高いほど徒歩の割合が多い。
- ◆利用目的別移動手段は、通学の約4割で自転車、徒歩、バスが多い傾向。

【利用頻度×移動手段】 ※複数回答



【利用目的×移動手段】 ※複数回答

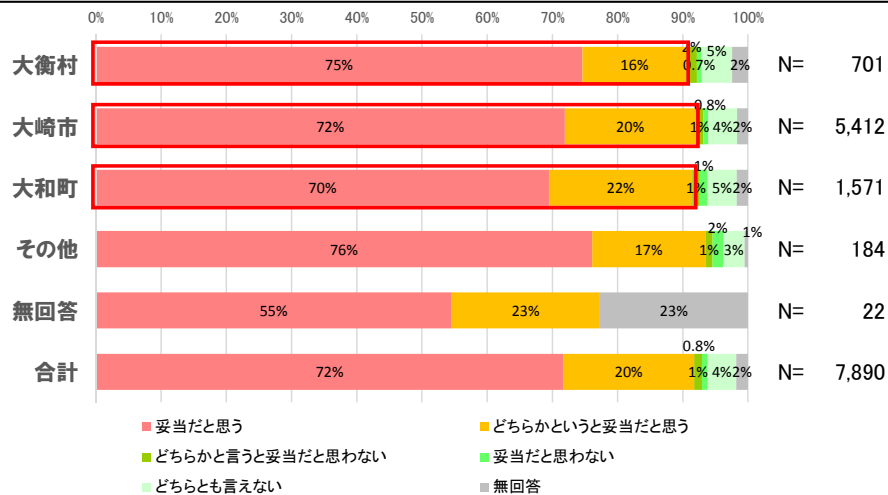


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
 ※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

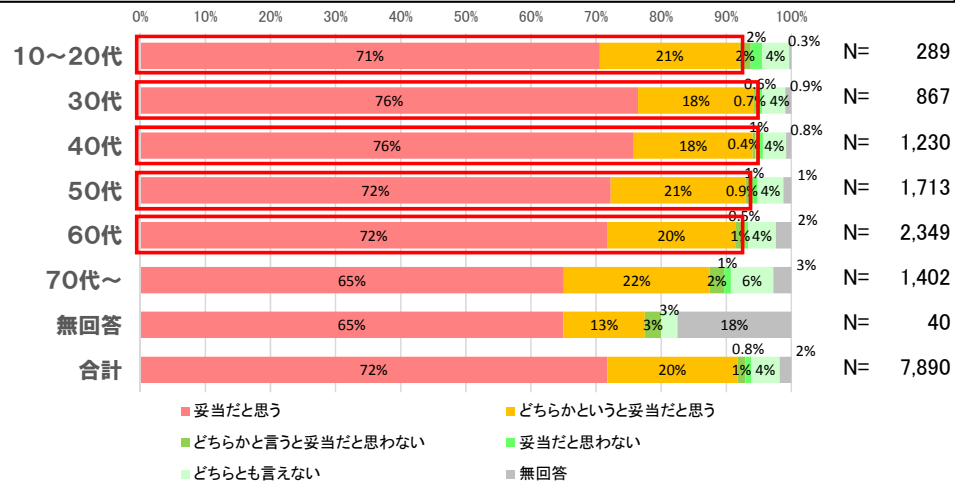
住民アンケート 第1回意見聴取結果の妥当性分析1

- ◆居住地別妥当性は、いずれの居住地でも9割以上が「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」と回答。
- ◆年齢別妥当性は、10～60代で9割以上が「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」と回答。
- ◆利用頻度別妥当性は、利用したことがなくても約7割が「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」と回答。
- ◆移動手段別妥当性は、いずれの利用手段でも「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」の割合が8割以上。

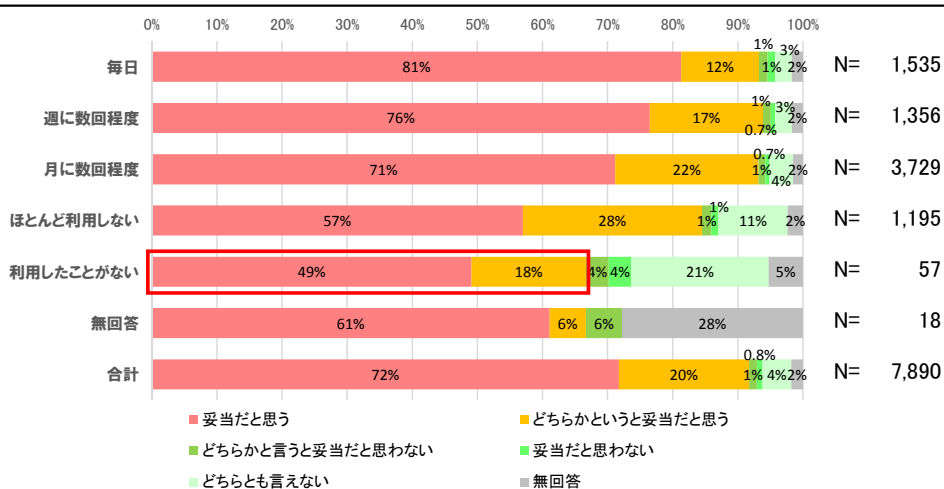
【居住地×妥当性】



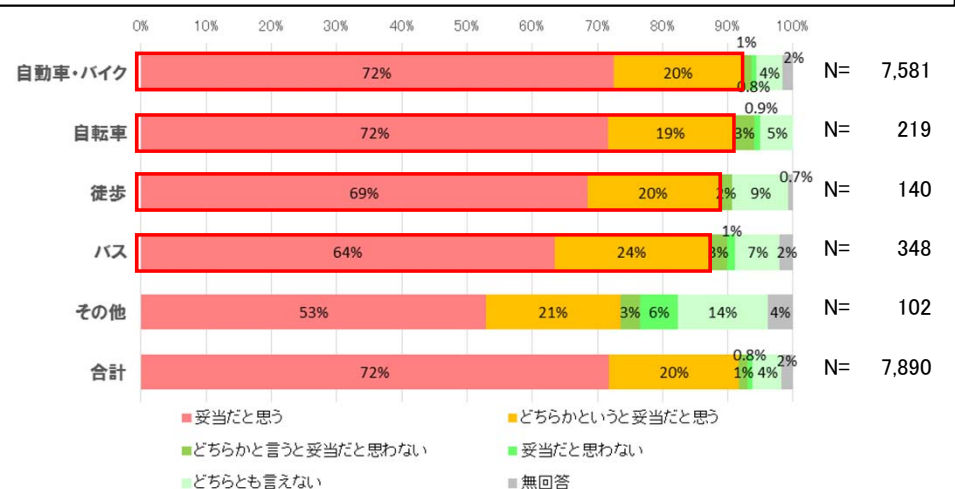
【年齢×妥当性】



【利用頻度×妥当性】



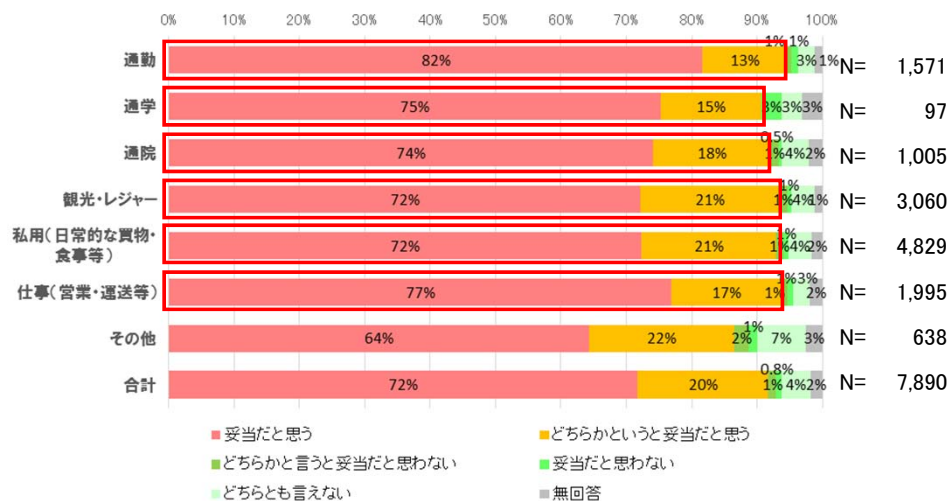
【移動手段×妥当性】 ※複数回答



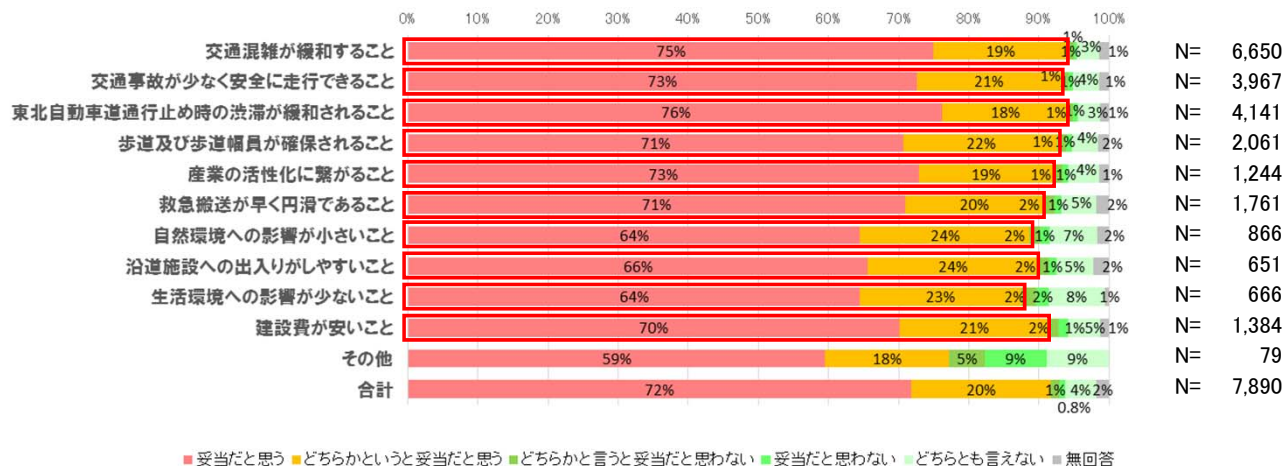
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

- ◆利用目的別妥当性は、利用目的によらず9割以上が「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」と回答。
- ◆重視する項目別妥当性は、いずれの項目でも9割程度以上が「妥当だと思う」「どちらかという妥当だと思う」と回答。

【利用目的×妥当性】



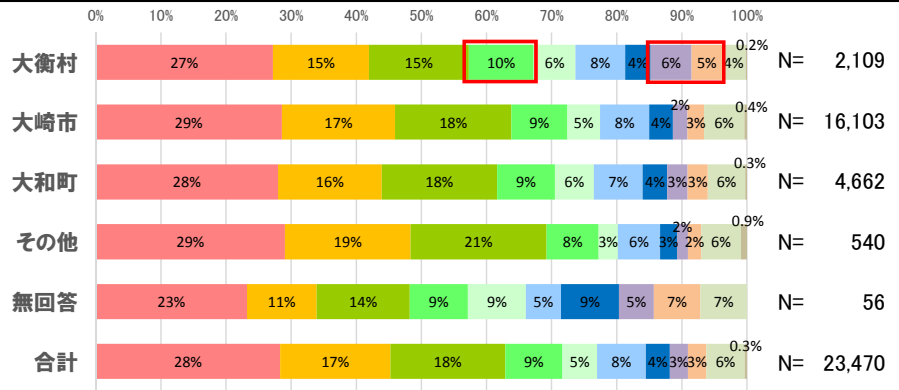
【重視する項目×妥当性】 ※複数回答



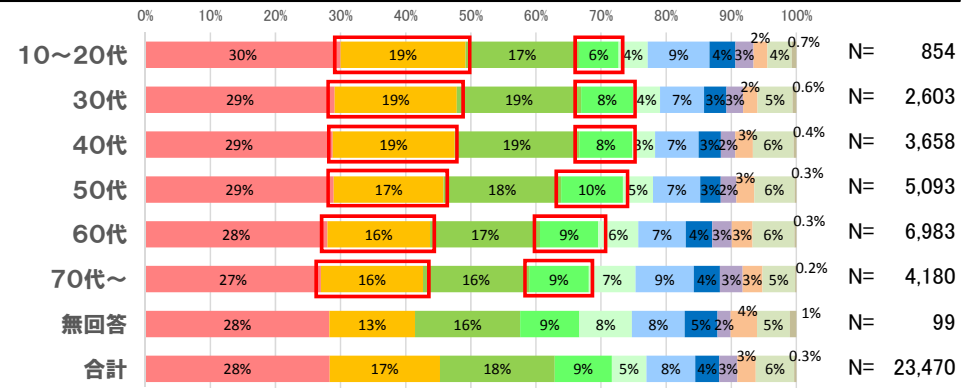
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
 ※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

- ◆居住地別の重視する項目は、大衡村で歩行空間の確保、沿道への出入りしやすさ、生活環境への影響の割合が多い。
- ◆年齢別の重視する項目は、年代が若いほど交通事故が少なく安全に走行出来ることの割合が多く、年代が上がるほど歩行空間の確保の割合が多い傾向。
- ◆利用頻度別の重視する項目は、頻度によらず概ね同じ傾向。
- ◆移動手段別の重視する項目は、徒歩で歩行空間の確保や沿道への出入りしやすさの割合がやや多い傾向。

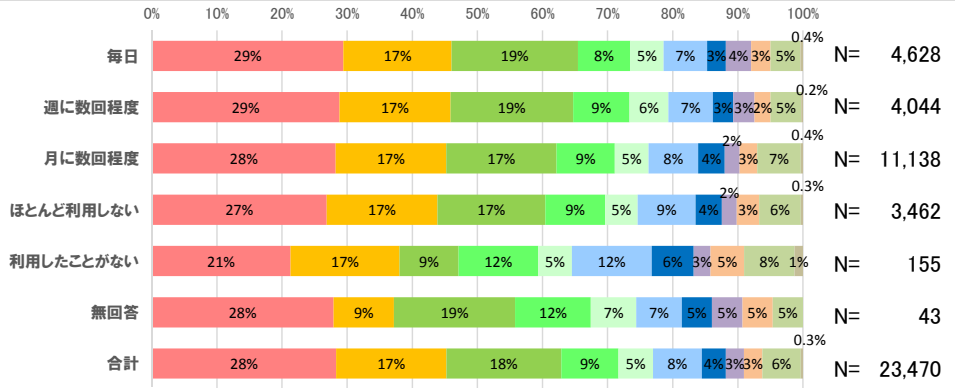
【居住地×重視する項目】 ※複数回答



【年齢×重視する項目】 ※複数回答



【利用頻度×重視する項目】 ※複数回答



【移動手段×重視する項目】 ※複数回答

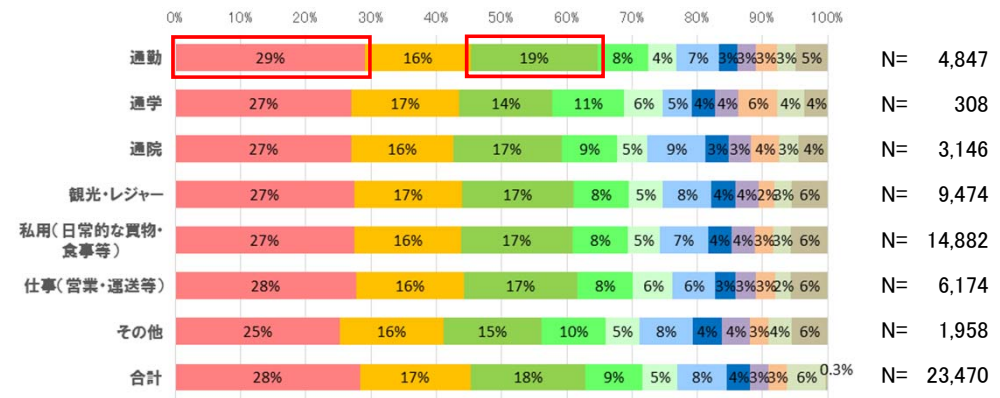


- 交通混雑が緩和すること
- 歩道及び歩道幅員が確保されること
- 自然環境への影響が小さいこと
- 建設費が安いこと
- 交通事故が少なく安全に走行できること
- 産業の活性化に繋がること
- 沿道施設への出入りがしやすいこと
- その他
- 東北自動車道通行止め時の渋滞が緩和されること
- 救急搬送が早く円滑であること
- 生活環境への影響が少ないこと

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

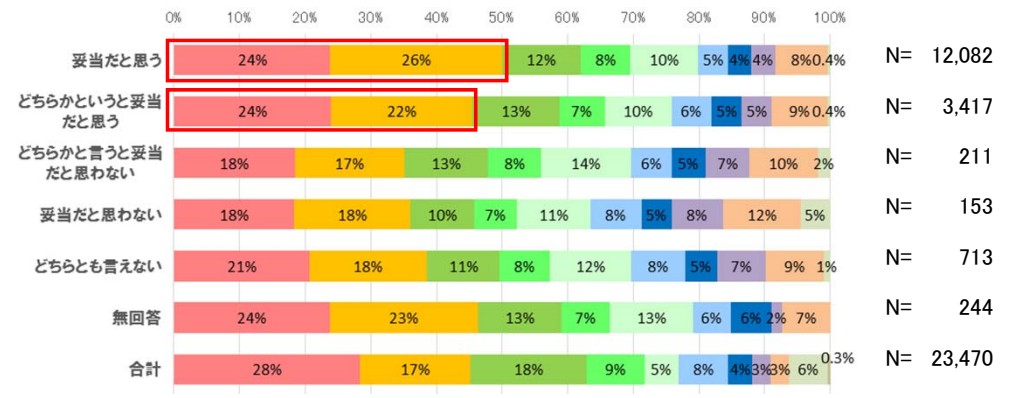
◆利用目的別の重視する項目は、通勤で交通混雑の緩和や東北道通行止め時の渋滞緩和の割合が多い傾向。
 ◆妥当性別の重視する項目は、妥当だと思うと回答した方ほど交通混雑の緩和や交通事故の減少の割合が多い。

【利用目的×重視する項目】 ※複数回答



- 交通混雑が緩和すること
- 交通事故が少なく安全に走行できること
- 東北自動車道通行止め時の渋滞が緩和されること
- 歩道及び歩道幅員が確保されること
- 産業の活性化に繋がること
- 救急搬送が早く円滑であること
- 自然環境への影響が小さいこと
- 沿道施設への出入りがしやすいこと
- 生活環境への影響が少ないこと
- 建設費が安いこと
- その他

【妥当性×重視する項目】 ※複数回答

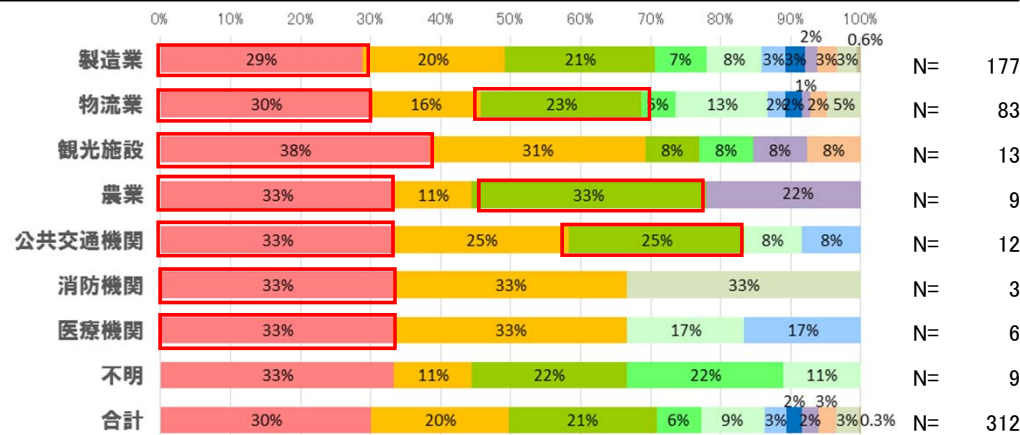


※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
 ※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。

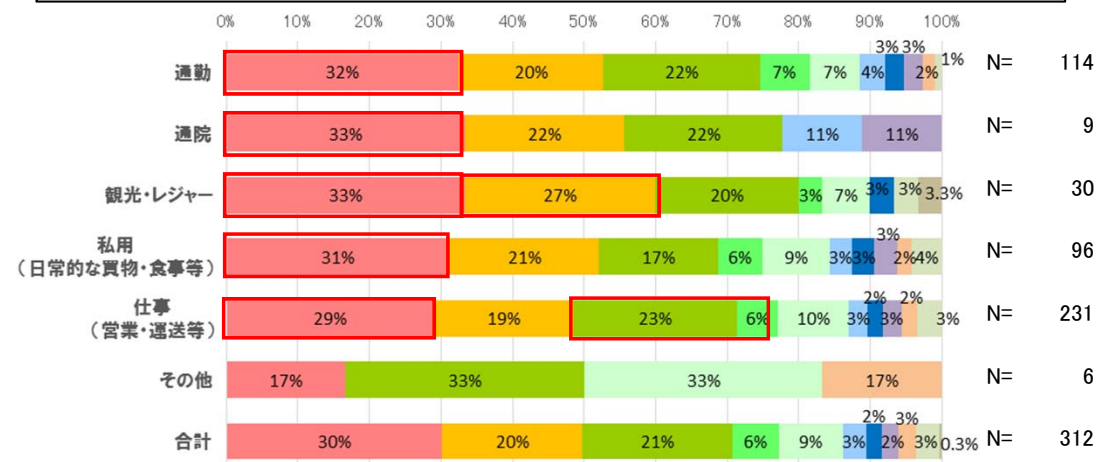
参考2. クロス集計結果【企業・団体アンケート】

- ◆業種別の重視する項目は、業種によらず交通混雑の緩和が約3~4割であり、物流業・農業・公共交通機関では東北道通行止め時の渋滞緩和の割合がやや高い傾向。
- ◆利用目的別の重視する項目は、目的によらず交通混雑の緩和が約3割であり、観光・レジャーでは交通事故、仕事では東北道通行止め時の渋滞緩和の割合がやや高い傾向。
- ◆利用頻度別の重視する項目は、利用頻度が高いほど交通混雑の緩和、交通事故の減少、東北道通行止め時の渋滞緩和の割合が多い傾向。

【業種×重視する項目】※複数回答



【利用目的×重視する項目】※複数回答



【利用頻度×重視する項目】



- 交通混雑が緩和すること
- 交通事故が少なく安全に走行できること
- 東北自動車道通行止め時の渋滞が緩和されること
- 歩道及び歩道幅員が確保されること
- 産業の活性化に繋がること
- 救急搬送が早く円滑であること
- 自然環境への影響が小さいこと
- 沿道施設への出入りがしやすいこと
- 生活環境への影響が少ないこと
- 建設費が安いこと
- その他

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。
※複数回答同士の合計値は、凡例項目の総回答数の集計とした。